

2017年11月5日

福音書からのメッセージ

あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

(マタイによる福音書 23 章 11~12 節)

この日曜日、桃山基督教会ではバザーが開かれました。目的は「九州地方災害被災者支援」で、収益はすべて、その働きのために用いられます。その週にこの福音書の言葉を聞くのは、決して偶然ではないと思います。

イエス様は、当時ユダヤ教の中心にいた律法学者たちやファリサイ派の人々のことをこう言いました。「彼らが言うことは、すべて行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、見倣ってはならない。言うだけで、実行しないからである」と。

この言葉に、ドキッとすることも多いのではないかと思います。現在多くの災害が、日本や世界の人々を襲います。また、戦争やテロによって、突然愛する人を失い、途方に暮れている人たちがいます。そのときに、自分は一体何をしていたのだろうか。遠く離れた地で、「かわいそうに、辛いだろうに」という思いを持つものの、何も実行することができない自分の姿に気づかされるのです。

しかしイエス様は、律法学者やファリサイ派の人々の「実行しない」姿だけを批判されているわけではありません。彼らは、「背負いきれない重荷をまとめ、人の肩に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸そうとも」せず、「宴会では上座、会堂では上席に座るのを好み」、「広場で挨拶されたり、『先生』と呼ばれることを好む」のだと言われます。簡単に言うと、他人のことはどうでもよく、人前で「いい恰好」ばかりする彼らの姿を批判されているのです。



そしてさらに、イエス様は言われます。「仕える者になりなさい、へりくだる者になりなさい」

と。イエス様はその生涯で、罪人や徴税人、娼婦といった、社会から疎外され、人々にさげすまれていた人たちと一緒に食事をし、手を差し伸べられました。「いい恰好」をするのではなく、共に痛み、共に悲しみ、共に涙を流しながら歩まれたのです。

ではわたしたちは、どうすればよいのでしょうか。わたしたちに出来ることは何なのでしょう。それは目に見える行動であり、また目に見えない行動でもあると思います。しかし何をするにしても、仕え、へりくだる思いがなかったならば、傲慢な思いだけが前に出てしまいます。今困難な立場にいる人のことを思い、祈りましょう。そしていつもその人たちのことを心に留め、共に歩むことが必要なのです。

わたしたち一人ひとりには、神さまから与えられた賜物があります。それぞれできることは違います。直接現場に行くことができる人もいれば、お金や物品を送ることができる人もいます。しかし一つだけ、みんなでできることがあります。それは心を一つにし、祈ることです。目には見えない小さな祈りかもしれません。でもその心からの祈りを、神さまは祝福してくださるのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>